

経営倫理（2019年度）シラバス 担当：國部克彦

<目的>

本講義は、通常の経営倫理の知識を提供することを目的とするのではなく、それを前提としたうえで、最も根本的なレベルでの経営における倫理の考え方を学ぶことを目的とする。本講義では、企業の倫理 (business ethics) ではなく、経営に關与する人間の倫理 (management ethics) という観点から、経済のロジックを超えた地点にある倫理を企業活動の中に反映させるためには何が必要なのかをレスポンスビリティの概念を軸に議論する。

<テキスト>

- ①國部克彦『アカウントビリティから経営倫理へ—経済を超えるために』有斐閣, 2017年
- ②國部克彦他『創発型責任経営—新しいつながりの経営モデル』日本経済新聞出版社 2019年

<参考書>

國部克彦・神戸 CSR 研究会『CSR の基礎』中央経済社, 2017年
高巖『ビジネスエシックス[企業倫理]』日本経済新聞出版社, 2013年

<評価方法> (合計：60点以上を合格とする)

- ①事前課題レポート : 10点×4回
- ②事後課題レポート : 60点

<事前課題レポートの提出の仕方>

4回の講義ごとの課題についてレポート (A4で1枚, 1000字程度) を作成し, 授業前に提出する。その後, このレポートを中心に議論するので, 自分用に1枚コピーをとっておくこと。最終講義日までは締切期日後も授業中に受け取るが, 評価は最高6点とする。

<事後課題>

あなたが勤める企業において「創発型責任経営」を導入するとすれば, どのような方法が考えられるか。企業の現状を分析したうえで, その意義と想定される効果と課題を論じよ。分量はA4で6枚程度 (6000字程度)。

締切日：2月29日(土)教務係へ提出

<講義の進め方>

- ・テキストの該当箇所を学習したうえで事前課題に取り組み, 講義に臨むこと
- ・原則として, 講義 (90分), ディスカッション (90分) の配分で進める
- ・講義時にレスポンスカードを配布するので, 講義に対する意見を戻すこと

<各講義の概要>

第1講 公共性 (テキスト①1章) (1月10日)

ビジネスにおける倫理問題はすべて経済と人間の関係から生じていることを、アーレントの公共性理論を導きの糸として学ぶ。経済がどのようにして社会を支配しているのかについて、経済の表現形式である会計の観点を意識して議論し、経済に対して人間を回復させる根拠としての経営倫理の役割を議論する。

事前課題: あなたの所属する組織で、私的な問題と公共的な問題が対立するのは、どのような時か。その問題をアーレントの公共性の視点から論じて見よ。

第2講 責任 (テキスト①2章, テキスト②1-3章) (1月17日)

ビジネスの世界における責任はいかにあるべきか。なぜ不祥事はいつまでたってもなくなるのか。責任の本質的な理解をレヴィナスおよびデリダの責任論に求め、有限の責任であるアカウンタビリティを、組織のレベルでも、無限の責任であるレスポンシビリティへ転換することが可能かどうかを議論する。

事前課題: あなたの所属する組織で課せられる責任を、デリダの無限責任の観点から論じ、それを無限責任のレベルに転換できるとすればどのようなことを考えよ。

第3講 評価 (テキスト①3, 4章) (1月24日)

無限の責任/アカウンタビリティを実行するためには、有限の目標を複数化する必要がある。そのための複数評価原理の会計として、MFCA, GRI スタンド、IIRC フレームワークなどを取り上げてその可能性を議論する。さらに、フィードバックプロセスの必要性についても検討する。

事前課題: あなたの組織の業績評価制度を、テキストで考えるような複数評価原理に変革するには何が必要か。現状を説明したうえで、考えられる可能性を示せ。

第4講 倫理 (テキスト①5章, テキスト②4章以下) (1月31日)

これまでの3回の講義で議論してきたことを総括し、倫理が実際に構築される局面を議論する。具体的な実践として、創発型責任経営をとりあげて、社会的課題への対応を通じて経営倫理が構築されるプロセスを考える。創発型責任経営とSDGsの関係など今後の展開方向についても検討する。

事前課題: あなたが勤める企業において「経営倫理」はどのように機能しているか。テキスト①5章で議論している倫理に相応しいものかどうか、考えよ。

<講義担当者連絡先> kokubu@kobe-u.ac.jp